

## 2024(令和6)年度事業報告

日本鑄造工学会は、定款第3条(目的)のとおり「鑄造工学に係る学術及び技術の振興を図り、日本及び世界のものづくり基盤産業の発展に寄与し、社会の豊かな生活を実現することを目的とする」に合致した公益事業を展開すべく活動してきた。カーボンニュートラルへの対応など、“ものづくり”の環境が大きく変化する中、これまでの活動を振り返り、さらなる飛躍を目指して策定した第3期長期ビジョンを基にした活動を充実させるとともに、“「新しい風」を吹かせ、「新しい風に乗る」”をスローガンに活動を進めてきた。SDGsを見据えた技術革新に繋がる基礎研究の推進、技術伝承の推進とオンラインを活用した若手人材育成を戦略的に行う活動及び鑄造に携わる仲間を増やすことを狙いに、鑄造の魅力を今まで以上に多くの若い方々に伝える活動など、産業界からの要望に応えるべく、様々な活動を積極的に推進した。

公益事業としては、公1：鑄造工学に関する学術講演会、講習会等の開催事業、公2：鑄造工学に関する調査研究事業及び相談事業、公3：鑄造工学に関する表彰及び奨励事業、公4：鑄造工学に関する広報誌等発行による普及啓発事業、その他、他1：会員に頒布する図書発行事業、他2：鑄造工学に関する相談事業の6つの区分にしたがって活動を行った。

2024(令和6)年度実施した事業は以下のとおりである。

### 1. 学術講演会、講習会等の開催事業(公1)

国内の鑄造業界においてはさまざまな課題がある。課題克服に向け、この技術を受け継ぎ、さらにそれらを発展させることのできる人材の育成、海外との競争力強化、経営基盤の強化、環境対策、鑄造産業自体を広く国民に理解していただく努力をどのように進めるかの検討を行ってきた。そのため研究と開発の成果を講演会や講習会をとおして広く公開した。

2023年度から新型コロナウイルス感染症が第5類感染症となり、全国講演大会を従来通りの対面形式で開催することができるようになったが、参加者の利便性を考え、会場での対面とWEBを組み合わせたハイブリッド形式で開催した。春季、秋季大会で合計259件の研究成果の発表・討論を行った。また、技術講習会、若手鑄造技術者を中心とするYFE大会を開催し、会員にとっての技術交流の場を作った。2024年度に鑄造工学会の論文賞、日下賞を受賞した方々の講演は、第183回全国講演大会で、西山圭三賞、技術賞、豊田賞を受賞した方々の講演は、第184回全国講演大会で実施した。また、「こども鑄物教室」や「工場見学会」も、従来通りに実施することができた。鑄造関連商品やその技術に関する展示会やPRセッションは対面とWEBのハイブリッド形式で行った。大学生、大学院生及び高専生を対象とした「鑄物コンテスト」は、鑄造に関する基礎的な学習とともにデジタル技術を実際に体験できる方法で開催し、参加者全ての方案の鑄造を行い、評価した。また高校生を対象にした「理系学生応援プロジェクト」は東海支部、関西支部で開催した。

各支部主催で、地域に密着した、要求に沿ったテーマを選び、講演会、講習会を実施した。その他、関連団体との共催による講演会、講習会、研修会の開催も行った。これらのイベントも対面形式あるいはハイブリッド形式での開催となっている。

- (1) 全国講演大会を春季は関東支部(東京都新宿区)、秋季は北陸支部(富山市)で開催。
- (2) 講演会・技術講習会、特別講演等は、地域等の協力を得て、北海道、東北、関東、北陸、東海、関西、中国四国、九州の全支部で、対面形式あるいはハイブリッド形式で計32回開催。
- (3) シンポジウムをハイブリッド形式で1回開催。
- (4) YFE(Young Foundry Engineers)大会は第183回全国講演大会時に2023年度の「学生のための鑄造方案勉強会」発表会を含み開催。
- (5) 第183回、第184回全国講演大会では、工場見学会を開催。
- (6) こども鑄物教室を開催。
- (7) 人材育成のための鑄造カレッジは、(一社)日本鑄造協会との協力により対面形式及びハイ

ブリッド形式で3地区で開催、(一財)素形材センターとの協力による研修講座、技術セミナーを多くのテーマについて開催。

(8) 鑄造カレッジ用オンデマンド教材の作製を継続。

## 2. 鑄造工学に関する調査研究及び相談事業(公2)

鑄造工学に関する調査研究事業に加えて、鑄造工学に関する相談事業を行った。鑄造工学に関する技術的な相談をしたい一般市民に対して機会を設け、技術的な問題解決に寄与していく。

調査研究事業として、各技術分野の専門家による、鑄造工学に関する研究、調査、技術交流事業を行ってきた。研究委員会では、常設の研究部会、地域のニーズに合わせた鑄物研究部会、現場鑄造技術部会、専門部会や合同研究部会による活動を対面形式あるいはハイブリッド形式での開催を行った。

研究成果は研究報告書により公開し、希望者は報告会等に参加、調査研究結果の有効活用に努めた。また広く鑄造工学に関する情報や資料の収集を行い、その研究成果を発表した。

- (1) 研究部会活動の推進とテキストの発行、技術レビュー記事などを「鑄造工学」誌に発表。
- (2) ハイブリッド形式でのシンポジウムの開催により、研究部会活動成果を公開。
- (3) 全国講演大会時にオーガナイズドセッションを開催し、最新の技術情報を報告。
- (4) 鑄造技術部会、現場鑄造技術研究会、合同研究会、鑄物研究会、その他各種研究会等多数開催。(対面形式、ハイブリッド形式を含め個別に開催方法を決めた。)

## 3. 表彰及び奨励事業(公3)

将来の鑄造産業及び日本の製造業の発展のため、鑄造に関わる研究や開発などに優れた業績を挙げた会員や一般市民に、日本鑄造工学会大賞をはじめ12種類の表彰を行った。この他、鑄造関連企業に就職した大学等の卒業生を対象に、奨励賞で表彰した。また、寄付金をもとに設定した基金から、若手研究者の研究奨励、若手活動支援、新東工業鑄造技術研究奨励の制度により研究等の奨励を行った。キャストイングズオブザイヤー賞は、現地に出向いて表彰を行った。

各支部においては、地域に密着した表彰及び奨励制度により、表彰、奨励を実施した。

### (1) 表彰

#### a. 本部関係

日本鑄造工学会大賞1件、優秀論文賞1件、論文賞3件、クボタ賞2件、飯高賞1件、西山圭三賞2件、功労賞6件、技術賞3件、網谷賞4件、豊田賞2件、日下賞3件、キャストイングズオブザイヤー賞2件の授与

#### b. 支部関係

北海道支部：長岡金吾賞1件、支部功労賞1件、東北支部：大平賞1件、金子賞1件、関東支部：現場改善賞6件、特別功労賞1件、功績賞7件、感謝状1件、岡田民雄賞2件、関東支部優秀学生講演賞4件、東海支部：支部賞10件、東海技術賞2件、岩田奨励賞6件、功労賞1件、功績賞3件、感謝状6件、関西支部：石野賞1件、功労賞2件、技術功労賞3件、優秀発表賞2件、支部奨学賞5件、中国・四国支部：功労賞1件、奨励賞2件、片島賞6件、九州支部：技術奨励賞1件に授与。

### (2) 奨励

#### a. 本部関係

特別若手研究奨励金2件、若手研究奨励金6件、若手活動支援金1件、新東工業鑄造技術研究奨励金1件に授与。

#### b. 支部関係

該当者なし

## 4. 鑄造工学に関する広報誌等発行による普及啓発事業(公4)

学会誌「鑄造工学」を毎月発刊した。最新の研究論文、技術論文をはじめ技術報告、解説、現場技術改善事例、現場改善ライト、レビューの他、シリーズ「わが社の履歴書」、「鑄造技士解体新書」を継続掲載した。会長との対談記事、鑄造業界要人(研究者や技術者)のインタビュー記事、YFE 委員会による各支部の「YFE だより」、「支部活動報告」も掲載した。Q&A コーナーを毎号、特集を4回掲載し、研究者、技術者及び経営者のいずれの方にも役立つ情報を拡大掲載した。また英文誌「Materials Transactions」の14学協会との共同発刊に協力するとともに、本会会員の投稿を積極的に推進した。国際化を狙いとして、掲載論文の International Journal of MetalCasting 誌への投稿も開始した。

また、支部においては地域の会員などとの魅力ある活動の一環で、地域に特徴をもった支部会報の発行を進め、普及を図った。

(1) 学会誌「鑄造工学」の定期発刊

会誌「鑄造工学」第96巻第4号より第97巻第3号までの12冊を発行した。

特集号を4月、5月、8月、12月に発行した。

第4号特集「機器分析Ⅰ」

第5号特集「機器分析Ⅱ」

第8号特集「最近の軽合金新材料及び生産技術」

第12号特集「銅合金鑄物の製造技術及び評価技術の進展」

(2) 全国講演大会講演概要集(研究報告259編)を5月と10月に発行した。

(3) 技術講習会テキストを5月、10月、3月に発行した。

5月「DXで実現する鑄造の未来」

10月「鑄造カーボンニュートラル実現に向けて」

3月「鑄型技術の最新トピックス」

(4) 支部会報発刊：東北支部第60号、関西支部通信第11号、中国四国支部会報「こしき」第47号の発刊。その他、ニューズレターの発行、各支部ホームページにより地域に合った情報発信を行っている。

(5) 鑄造を広く知っていただくために、動画の製作を行い、YouTubeで発信した。

## 5. 会員等に頒布する図書発行业務(他1)

専門誌、図書発行を行う。当事業では、鑄造研究者、鑄造技術者向けに鑄造工学に関する専門誌を発行し、会員はじめ鑄造関連技術者相互の利益を図ることとしている。

主に鑄造分野の特定領域について深く掘り下げた専門性の高い内容を図書としているもので、多くの販売は望めないものであるが、鑄造分野においては必要不可欠な、将来に残すべき内容をまとめて発刊する。その分野の先進の専門家が編集委員会を組織し、データの収集と編集を行っている。

## 6. 鑄造工学に関する相談事業(他2)

「鑄造工学に関する相談事業」について具体的には、次に記す3つの事業で会員を対象にしたものである。

(1) 鑄造工学に関する技術相談事業

(2) 鑄造工学に関する論文執筆相談

(3) 現場技術改善事例の執筆相談

## 7. その他、本会の目的を達成するための事業

(1) 国内関係

他学協会((公社)日本工学会、(一社)日本鑄造協会、(一財)素形材センター、等)との協力

(2) 国際関係

世界鑄造技術機構理事会、The 75<sup>th</sup> World Foundry Congress 等への参加、中国・韓国鑄造工学会との交流、海外開催学会への派遣など。(WEBあるいは現地参加)

## 8. 本会の法人管理・運営に関する事業

- (1) 総会，理事会の開催(本部，支部)
- (2) 各種委員会の開催など(本部，支部)